

平等に法華經の光を傳へてやらうとの、有難い御慈悲からの御入山である。故に一度この尊い宗祖の御魂を擁して永久に流れる身延の自然と、永遠に絶わぬ法の山風に接した時、私等の心の荒びは、忽ちに消滅するのである。

あゝ、驚くべき靈格の身延の自然よ！

身延の自然こそは、永久に懐しき私等の信仰の中心である。

## 聖祖御入山を懐ふ

石 井 緑 線

仰げば尊し鷺の山

常に住むてふ峰の月

本地の風光とこしに

實相真如の法の華

天地に咲きて香ばしく

げに寂光の浄土なれ。

宗祖日蓮大菩薩

建長五年の春の日の

妙法蓮華の首めより

救ひの綱どなし給ふ

闇路を照す光明も

三度の諫めも容れられず

夏の初めの半ばの日

處もさむし西谷に

一乗み法の真髓を

濁り迷へる後の世の

今に榮ゆる有様は

末の世までも留めおき

是れぞ靈山の契りぞと

四季折々に咲く花も

水の流れも鳥の音も

死身弘法のみ教へを

深き御慈悲ぞ尊けれ。

雨と風とにさへぎられ

遂に文永十一年

身延の山路分け入りて。

春風秋雨九星霜

色心二法もろどもに

教への基と示されり。

宗祖大師のみ心を

茲を元ひに參るべし

仰せられしも理や。

實相本有の姿にて

吹く松風の音までも

永劫としなへなるそのまゝに

皆妙法のひびきあり。

あゝ、神境か靈境か

來れ人々法華經に

登れ人々身延山

共に集ふてそこしわの

救ひのみ親に跪き

報恩感謝の祈りせん。

## 思ひ出のまゝに

水郷の里にて  
間 宮 夢 覺

昔から佛の山に鬼が住むと云ひます。誰が云ひ始めたのでせうか、佛の山に住む人は悉く佛様のやうに尊いお方ばかりだと深く信じている人々が、あまりに矛盾多い生活を如實に見せつけられて遂に彼等を呪詛したのがこの言葉ではないでせうか、それだけ佛様の恩恵に多く浴し得る人々が、なせ鬼のやうなまるで正反對の生活をしなければならぬでせうか、私は私の得た經驗から思ひ出のまゝに筆を進めてみることにしました。